

参考文献表の作成（レジメ）

書籍の場合

- ◎ 名前（苗字＋個人名）＋『書名』＋出版社名＋、＋刊行年＋。
- ◎ （例）伊藤貞夫『古典期のポリス社会』岩波書店、1981年。

シリーズ本の場合

- ◎ 著者名＋『書名』＋（シリーズ名）＋出版社名＋、＋刊行年＋。
- ◎ （例）桜井万里子『古代ギリシアの女たち』（中公新書）中央公論社、1992年。

翻訳書の場合

- ◎ 著者名＋（翻訳者名＋訳）＋『翻訳書名』＋出版社名＋、＋刊行年＋。
- ◎ （例）リチャード・J・エヴァンズ（今関恒夫・林以知郎監訳 佐々木竜馬・與田純訳）『歴史学の擁護—ポストモダニズムとの対話』晃洋書房、1999年。

雑誌論文の場合

- ◎ 名前（苗字＋個人名）＋「論文名」＋『雑誌名』＋巻号数＋、＋刊行年＋、＋ページ数＋。
- ◎ （例）伊藤貞夫「ラウレイオン銀山における鉱山採掘権の問題」『史学雑誌』68－8、1959年、1－28頁。

書籍収録の論文の場合

- ◎ 著者名（苗字＋個人名）＋「論文名」＋編集者名＋編（または共編）＋『書籍名』＋出版社＋、＋刊行年＋、＋ページ数＋。
- ◎ （例）太田信幸「VIRI MILITARES とは何か—属州ブリタンニア総督を手掛かりとして」（浅香正監修『増補改訂版 ローマと地中海世界の展開』晃洋書房）、2003年、100－115頁。
- ◎ （例）太田信幸「VIRI MILITARES とは何か—属州ブリタンニア総督を手掛かりとして」、浅香正監修『増補改訂版 ローマと地中海世界の展開』晃洋書房所収、2003年、100－115頁。

文献表の書き順

- ◎ 苗字のアイウエオ順
- ◎ 刊行年の古い順

別の書き方

書籍の場合

- ◎ 名前（苗字＋個人名）＋（刊行年）＋：＋『書名』＋出版社名＋。
- ◎ （例）伊藤貞夫（1981年）：『古典期のポリス社会』岩波書店。

シリーズ本の場合

- ◎ 著者名＋（刊行年）＋：＋『書名』＋（シリーズ名）＋出版社名。

- ◎ (例) 桜井万里子 (1992 年) : 『古代ギリシアの女たち』 (中公新書) 中央公論社。

翻訳書の場合

- ◎ 著者名 + (翻訳者名 + 訳) + (刊行年) + : + 『翻訳書名』 + 出版社名 +。
- ◎ (例) リチャード・J・エヴァンズ (今関恒夫・林以知郎監訳 佐々木竜馬・與田純訳) (1992 年) : 『歴史学の擁護—ポストモダニズムとの対話』 晃洋書房。

雑誌論文の場合

- ◎ 名前 (苗字 + 個人名) + (刊行年) + : + 「論文名」 + 『雑誌名』 + 巻号数 +、 + ページ数 +。
- ◎ (例) 伊藤貞夫 (1959 年) : 「ラウレイオン銀山における鉱山採掘権の問題」 『史学雑誌』 68-8、1-28 頁。

書籍収録の論文の場合

- ◎ 著者名 (苗字 + 個人名) + (刊行年) + : + 「論文名」 + 編集者名 + 編 (または共編) + 『書籍名』 + 出版社 +、 + ページ数 +。
- ◎ (例) 太田信幸 (2003 年) : 「VIRI MILITARES とは何か—属州ブリタンニア総督を手掛かりとして」 (浅香正監修 『増補改訂版 ローマと地中海世界の展開』 晃洋書房)、100-115 頁。
- ◎ (例) 太田信幸 (2003 年) : 「VIRI MILITARES とは何か—属州ブリタンニア総督を手掛かりとして」、浅香正監修 『増補改訂版 ローマと地中海世界の展開』 晃洋書房所収、100-115 頁。

文献表の書き順

- ◎ 苗字のアイウエオ順 (著者が異なる場合)
- ◎ 刊行年の古い順 (同一著者の場合)

同じ著者名が続く場合には二回目以降は「同」又は「一」で省略する。

単著と共著がある場合、単著を先にして共著を後にする。

参考文献の記述が 2 行以上ある場合には 2 行目以下は少なくとも 4 字分以上下げて書く。

洋書については 3 年次生のゼミで聞いてください。

参考文献練習問題

1. 次の各文献を名前（苗字＋個人名）＋『書名』＋出版社名＋、＋刊行年の順で整理しなさい。

中央公論社、『ギリシアとローマ』（世界の歴史 5）1997年、桜井万里子・本村凌二。

1997年、橋場弦、東京大学出版会、『丘の上の民主政』。

フラウイオス・アッリアノス、東海大学出版会、『アレクサンドロス東征記およびインド誌』本文編・注釈編、（大牟田章訳注）、1996年。

『ミューケーナイ世界』、1983年、みすず書房、J.チャドウィック（安村典子訳）。

桜井万里子・橋場弦（編）『古代オリンピック』（岩波新書）岩波書店、2004年。

2. 次の文献を参考文献表に整理しなさい。

（小河陽訳）、1988年、『ヘレニズム世界』教文館、F. W. ウォールバンク。

ミネルヴァ書房、1993年、大戸千之、『ヘレニズムとオリエント ―歴史のなかの文化変容―』。

『古代ギリシアの女たち』（中公新書）、桜井万里子、1992年、中央公論社。

筑摩書房、森谷公俊、1998年、『王妃オリュンピアス ―アレクサンドロス大王の母―』（ちくま新書）。

岩波書店、1996年、桜井万里子、『古代ギリシア社会史研究 ―宗教・女性・他者―』。

3. 次の参考文献を参考文献表に整理しなさい。

『古代ギリシア 地中海への展開』（諸文明の起源 7）、京都大学出版会、2006年、周藤芳幸。

『ギリシア・ローマの栄光』、講談社、馬場恵二、（ビジュアル版世界の歴史 3）、1984年。創文社、1986年、合阪学、『ギリシア・ポリスの国家理念』。

2003年、J. J. ポリット、『ギリシャ美術史 芸術と経験』ブリュッケ、（中村るい訳）。

『ポリスに生きる』、前沢伸行、山川出版社、（世界史リブレット 2）、1998年。

2000年、『古代スパルタ史研究 ―古典古代への道』岩波ブックサービスセンター、新村祐一郎。

同成社、1997年、『ギリシアの考古学』、周藤芳幸。

フラウイオス・アッリアノス、（大牟田章訳注）、『アレクサンドロス大王東征記付インド誌』上・下、（岩波文庫）、2001年、岩波書店。

『図説ギリシア エーゲ海文明の歴史を訪ねて』、1997年、周藤芳幸、河出書房新社。

思索社、W. W. ターン、『ヘレニズム文明』、（角田有智子・中井義明訳）、1987年。

『古代ギリシアにおける自由と正義』、1998年、創文社、仲手川良雄。

伊藤貞夫、岩波書店、『古典期のポリス社会』、1981年。

『アテナイ公職者弾劾制度の研究』、1993年、橋場弦、東京大学出版会。

桜井万里子（編）、山川出版社、2005年、『ギリシア史』（新版世界各国史17）。
清水書院、1984年、（清水新書）、大牟田章、『アレクサンドロス大王 ―「世界」をめざした巨大な情念―』。
2001年、白水社、『古代ギリシア人 ―自己と他社の肖像―』（橋場弦訳）、P. カートリッジ。
原随園、（新潮選書）、新潮社、『アレクサンドロス大王の父』、1974年。
『ミケーネ世界崩壊期の研究―古典古代論序説―』、岩波書店、太田秀通、1968年。
講談社、2004年、伊藤貞夫『古代ギリシアの歴史 ポリスの興隆と衰退』（講談社学術文庫）。
中井義明、ミネルヴァ書房、2005年、（MINERVA 西洋史ライブラリー64）、『古代ギリシア史における帝国と都市 ―ペルシア・アテナイ・スパルター―』。
村川堅太郎・秀村欣二、中央公論社、1961年、『ギリシアとローマ』（世界の歴史2）。
（講談社選書メチエ）、『アレクサンドロス大王 ―「世界征服者」の虚像と実像―』、森谷公俊、2000年、講談社。
1962年、（大城巧訳）、みすず書房、『専門字Bの解説』、J.チャドウィック。
1997年、山川出版社、『ソクラテスの隣人たち―アテナイにおける市民と非市民』、桜井万里子。
P. ブリアン、2002年、（文庫クセジュ）、『アレクサンドロス大王』、（田村孝訳）、白水社。
東京堂出版、2004年、『古代ギリシア遺跡事典』、周藤芳幸・澤田典子。